

「もとはこちら」のお話し

49 今月のテーマ 使命と信念



平井謙次先生
断食五十日目

本来の自分とは
「無限なるわが命」
一切を超越した普遍のものである

(平井謙次著 自己を生かす道より)

人は正に十人十色、百人百様で、誰にでもその人ならではの個性というものがあります。もしも私達に個性というものがなかったならば、誰一人としてこの世に生まれてくる事もなければ、また死んでいく事もありません。なぜならば、個性がないという事は、完全無欠な存在であるという事であり、完全無欠なものは決して姿形をあらわす事がないからです。

ですからこの「全ての人には個性がある」という事を逆に言えば、「全ての人には不完全である」という事になります。不完全だからこそ、その人にはその人だけの個性というものがあり、様々な人生や使命があるという事になるのです。

しかしこの、全ての人にはその人らしい個性があるという事については、誰もがそうだそうだと納得するのですが、誰にでもその人だけの使命があるというのと、「いやいや、私程度の者には、使命などという立派なものは何もありません。頼みもしないのに親が勝手に生んだだけです。だから私がどう生きようと、どう死のうと、それは私の勝手です」という様な事を言う人が意外と多いのです。

自分が生まれて来たのは偶然の出来事であり、自分の意思でも何でもない。なぜならば、もしも自分が生まれる事を望んで自分の意思で生まれてきたのであれば、今とは別の人生を、即ち今とは違う親を選び、違う時代や場所を選んで生まれてきた筈だろうから、などと言うのです。確かにそうかもしれませんが、少なくとも意識のレベルでは殆どの人が、自分でこの人生を選んだのではないと思っっている筈です。

私達を生み出したもの

では少し時間をさかのぼり、自分が生まれる前の事を少し考えてみましょう。

自分が生まれる肉体の元となったものは、両親の一個の精子と一個の卵子です。元々それらは数え切れないほど沢山あった筈です。しかしその中で、人間としてこの世に肉体を持って生まれて来る事が出来たのは、自分とその兄弟姉妹のせいぜい数人だけです。考えてみれば、自分の肉体を造り始める元となったその一個の精子は、他の精子との競争を勝ち抜き、誰よりも一番早く泳ぎ着いて、そこで待っていた卵子と巡りあう事ができたのです。こういう競争率数億倍もの熾烈な闘いを勝ち抜いた張本人とは、誰あるう他ならぬこの自分自身です。



北原ゆり筆

両親は、自分が生まれ出るためのその機会を与えてくれた恩人であり、その与えられた貴重な機会を自分のものにしたのは、どう考えてもこの自分なのです。ですから、自分が生まれて来た事に対し、そこに自分の意思などは何も無かった」等という事は、私達は誰一人として言う事は出来ない筈です。

そしてまた、この世に生まれてきた人というのは、今言った様に、生まれ出るための何億倍もの競争を勝ち抜いた強靱な意思と体力、精神力などの素晴らしい素質を持った人達ばかりだという事がいえます。

選出された私達

そして、例えばオリンピック選手の間には、選ばれずに涙をのんだ多くのアスリート達がいる様に、私達が生まれて来たその陰には生まれて来る事の出来なかつた大勢の仲間達がいる筈です。ですからこの世に生まれて来た私達というのは、そういう大勢の人達の代表者として選ばれ、そして自らの意思でこの世に生まれてきたという事はつきりと言えるのです。

では私達は何故それ程までにして、この世に、そしてこの時代に生まれて来たのかという事です。

それは何よりも先ず、一人ひとりの中に「この世に肉体を持って生まれた」という強い想いがあつたからに違いありません。しかもその強い想いというものは、単なる個人的な想いだけではなく、自分を含める一切すべてのものが、あなたという、そういう個性を持った人がこの世に生まれる事を強く望んだからに違いないのです。

ここで言う「一切すべてのもの」とは、両親や家族などというように限られた人の事ではありません。それは絶対的存在である、大宇宙生命という事です。その働きによつて、私達一人ひとりが意図的に選ばれ、生まれてきたという事です。もしもこの宇宙的な命の働きがなければ、私達は誰一人としてこの世に生まれて来る事はなかつた筈であり、またこの先死んでいく事もありません。生死を司るこの根源的な存在やその働きの事を、私達は一般に、神とか仏、或いは大生命とか大親様などと呼んでおります。

では再び、なぜその大きな力が私達一人ひとりを大勢の中から選んでこの世に生み出したかという事です。

私達には、一人ひとりにその人となりの個性があると初めに書きました。両親の行為は自分がこの世に生まれ出るためのひとつの縁にすぎません。そしてその縁を引き寄せたのは、他ならぬこの自分です。

元々の自分が持っていた波動が、それに非常に近い両親の波動と感応しあい、その結果、自分はこの両親の元に生まれてきたわけです。そして両親だけでなく、生まれたこの時代もこの場所も、元々の自分が持っていた波動に、それらが一番ふさわしいものであったという事です。

自分の魂の波動とは、自分の個性、自分の能力等々、あらゆる意味での自分らしさという事です。

そして生まれるという事は、例えば、目にも見え耳にも聞こえないが空間に満ちあふれている音声や映像に、周波数を合わせれば、テレビやラジオに映像や音声が現れ出て、目に見え耳に聞こえる状態になるのと同じ様な事で、私達の個性ある波動は、元々宇宙いっぱいには満ち溢れ、そして生き生きと生きているのです。そういう目に見えない私達一人ひとりの個性ある波動が、両親や時代や場所の持つ波動とピッタリと合ったという事です。

なぜ、この時代に生まれたのか

例えば幕末の時代には、西郷隆盛や坂本竜馬、勝海舟などの傑出した人物が続々と生まれて来ています。或いは西洋でも、人間性復興のルネサンスの時代には、それにふさわしい人物が次々と生まれ、産業革命の時代にも、またそれにふさわしい人物が次々と生まれて来ております。よくもそういう時代にふさわしい人物がうまく具合に生まれ出たものだと感じるのですが、反対に言えば、そういう人物が生まれた事によつて新しい時代が作り出されたという事になります。

時代と、その時代に生まれる人物との関係は、決して偶然ではあ



りません。時代や場所がその時代に必要な、その場所にふさわしい波動を持つ人達を選び出し、そしてそれらの人達を必然的に生み出し続けているという事です。この事を人間の側から言くと、もともとの自分の持つている自分の波動、即ち自分らしい個性や能力、そういう全てのものが、その時代や場所に丁度合っているから、自分が選ばれて生まれて来たという事になるのです。

では私達が生きている今のこの時代というのは、一体どういう時代なのでしょう。

それはひとりで言えば、歴史上かつてない程の、大きな変革の時代であるという事が出来ます。

インターネットというこれまでに無かった全く新しいシステムが生まれ、世界中の人々が誰でも簡単に遠い世界の人々と繋がりがえる様になりました。また科学技術の急速な発達により、地球の裏側の一点をめぐって殺人兵器を飛ばすという様な、恐ろしい事も出来れば、地球から遙か遠く離れた惑星の物質を持ち返るというような素晴らしい事も出来る様になりました。時間空間が縮まり、地球がどんどん狭く小さくなり、他人と自分の距離が目に見えて縮まってきたいます。その一方では、地球規模での気候変動により、自然災害の為に一度に多くの人命が損なわれ、また多くの動植物の絶滅の危険が叫ばれるようになりました。

政治的・宗教的な対立も到る所で起こり、いつ世界戦争が起きるかもしれないという、真に様々な危険をはらんだ時代です。生き物が極端に生き辛い状態が加速度的に進み、ひとりで言えば、地球の滅亡、人類滅亡の怖れが非常に強くなってきており、危機的状況にあるという事です。

急速な科学の発達による時間空間の縮小と、そして私達全ての命の元である自然界の崩滅という両方向に向かって猛烈なスピードで突き進んでいる、そういう時代に、今、私達は生きています。

私達のなすべき事

ではこの様な大変な時代に生まれた私達一人ひとりの使命とは、



一体何なのでしょう。

それはまず、私達全てが、今までの生き方、考え方の方向転換を強く迫られているという事です。一人ひとりが自分の本質に目覚め、自分達は運命共同体であり、この地球に住む一人ひとりの運命は全く同じ一つ所にあるという事を、全身全霊で感じ取ることを求められているということです。

そしてその一人ひとりが、或いは一国一國が、対立しながら夫々個々別々の利益や欲望達成を追い求めていく今までの様な生き方ではもう将来はなく、全体として一つになって生きていく新しい方向を探し出し、その方向に楯を変えなければ、全てが崩壊するという事はつきりと知らねばならないという事です。

即ち自分や自分の属する集団が、対立する相手方より少しでも優位に立ち、相手を陥れ利用するような今までのようなやり方では、自分も相手も、全てが必ず破滅の方向へ行くという事はつきりと自覚認識しなければならぬという事です。

その事は先の機密事項の漏洩事件で、窮地に立たされたある国の狼狽ぶりを見ても分かりますが、相手と対立したり見下したり、利用したりするのではなく、調和や共存の道を切り開く方向に行かなければ、私達の幸せは、もうどこにもないという事です。

地球はほとんどと破壊しながら小さくなっていつていっているのです。時間はもうありません。この、共に生きるか、或いは共に死ぬかの緊迫したこの時代の持つ緊急性が、私達一人ひとりが持っている私達の波動とピッタリと合致しているという事です。

「地球も人類も、決して滅亡破滅の方向に行つてはならない。早く方向を変えよ」という強い警告が、日増しに大きくなってきています。その警告を聴き取り感じ取る能力が、今、この時代を生きる私達一人ひとりの中には必ずある筈です。そしてまた新しい方向に変える能力も、私達一人ひとりにはあるのです。だからこそ、私達を選ばれ、自らもこの時代を選んで生まれてきたのです。

全ての人が幸せになれる時代へと、方向を変えてくれるのは、誰か知らないどこかの人などではありません。私達一人ひとりが変化

し、正しい方向に変わる事で、必ず世界が変わります。勿論大きな自然災害なども防げる筈です。

本当の自分を知る

自分が変わるためには、何を置いて、「自分とは、一体何であるのか」という事を、はっきりと知る事が絶対に必要です。そしてそれを知る指針が、「もとはこちら」という考え方、生き方の中にはつきりと示されており、



「自分とはこの肉体であり、肉体が減れば自分の命も、そして自分の個性もすべてが無くなる」と考えていた人が殆どであったこれまでの古い生命観、古い人生観、古い宇宙観のすべてを覆し、新しい生命観、新しい人生観、新しい価値観が、これまでの古い常識にとつて変わるうとしています。

目に見えない物質であるダークマター、或いは暗黒物質と呼ばれるものの存在が、物理的にも立証されつつあります。目に見える肉体の自分だけが自分なのではありません。自分とはもつと大きなもの、偉大なものであり、ものすごい大きな力、宇宙的な力によって生み出されたものであり、自分を生み出したその大きな力とこの自分とは、分けようのない完全一体の存在です。私達は、元々全ての人、全てのもので一体の存在であり、対立を乗り越えて共に一つとなつて大調和の中で生きる以外に、生き残る道はもうどこにも残されていません。先ずは、はっきりと知る事です。

全ての人が本当の生き方に目覚める新しい時代が、もう目の前まで来ております。

私達が今のこの時代に生まれたのは、決して偶然でも何でもありません。自らが強く望んで生まれてきたのであり、私達一人ひとりには、新しい時代を築き上げ、それを次の世代に引き継いでいくという大きな使命があるのです。その使命を果たす為の一番ふさわしい人として、私達一人ひとりが選ばれ、自分達も深い無意識の力によつてこの時代を選んで生まれて来たのです。

「もとはこちら」を学ぶ事は、人間本来の姿に気付く事であり、また同時に将来に向けての正しいものの見方や考え方、生き方を学ぶ事でもあります。また、真実の幸せを手にする道でもあるのです。

平井先生が提唱された「もとはこちら」の生き方は、自分一人だけではなく、全てのもの、全ての人々が幸せになれる生き方を、明々と示してくれております。この、誰もが幸せになれる新しい時代を造る為に一番ふさわしい素質を持つ魂として選ばれ、そして生まれしてきた私達一人ひとりです。肉体的には生きたり死んだりしながら、決して生きたり死んだりする事のない永遠無限の命の世界に生き続けている、もう一人の自分の存在にはつきりと気付く事、そして対立するものが一切ない根源の世界を知ることから、私達の新しい時代の幕開けが始まります。

「全く新しい生命観を持ち、共に生きる新しい時代を切り拓く」その主人公として選ばれた私達であるという事に絶対の誇りと信念、そして使命感を持ち、今年もまた一緒に「もとはこちら」の学びを深めてまいりたいと思います。

皆様のご多幸とご健勝を、心より祈念いたします。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

〔ご案内と変更のお知らせ〕先にご案内させていただきましたが、

新年一月の勉強会は、勝手ながら**一月二十二日(土)**

午後七時からに変更させていただきます。悪しからずご了承ください。
今回は、二月五日(土)午後七時からを予定しております。

皆様のご参加を、お待ちしております。

編集発行人

もとはこちら会 資料編集部 北原友也

専用HP <http://www.motoha-kochira.com>

mail: data3@motoha-kochira.com